

【様式1】

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	富山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	立山町立立山小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	18	24	21(1)	26(1)	24	24(1)	3	140	

研究の概要

1. 研究主題

<p>一人一人が喜びをもって学習できるための教師の支援はどうあればよいか 確かな学力を身に付ける子供の育成</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全校算数・全校国語 昨年度、算数を実施し成果が見られたので、漢字等に定着の差が見られた国語でも実施。 各学年算数等でのTT、少人数指導（習熟度別、課題別） 昨年度、実施し成果が見られたので、教材、指導過程等さらに研究を進めるため。 1年音楽、2年体育、3年総合的な学習の時間・道徳、4年総合的な学習の時間、5年算数、6年社会、特殊生活単元等の教科を通しての授業研究 本校では、各学年の担任の専門教科の中で、意欲に支えられた学習への実践を行っている。これまでの研究成果を基に、さらに研究を深めるため。 音楽活動の工夫 学習へのレディネス、ことに集中力や心の安定、感性を育てるため。 朗読指導、読書指導（読書指導については、総合的な学習の時間にも位置付けた） 話すこと、読むことを通して、豊かな想像力を育てるため。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 一人一人が喜びをもって学習できるための教師の支援はどうあればよいか 確かな学力を身に付ける子供の育成</p> <p>仮説 (1) すべての教育活動で、一人一人が生かされる活動を積み上げていくことで意欲的な子供を育てることができる。 (2) 興味をもって取り組むことができる学習教材を工夫することが、子供たちに「確かな学力」を付けることにつながる。 (3) 授業の構造や少人数指導の方法を工夫して「分かる授業」を展開し、子供たちにできる喜びを味わわせることが確かな学力につながる。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 全校算数と算数科での少人数指導の在り方 (2) 全員による研究授業観察と授業分析（教材開発） ・ 意図的に取り組むことができる教材の開発 ・ 一時間の授業の集中力を高めるオープニングの工夫 (3) 読書・朗読・音楽活動など集中力と表現力を高める活動 (4) 「確かな学力」を指向する週時程の工夫</p>
--------	--

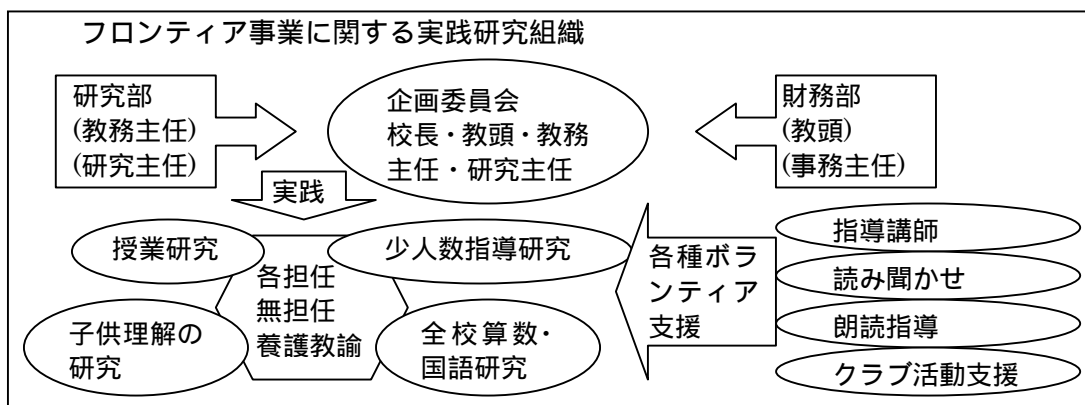
<p>テーマ 一人一人が喜びをもって学習できるための教師の支援はどうあればよいか 確かな学力を身に付ける子供の育成</p>

【様式1】

平成15年度	<p>仮説</p> <p>(1) 授業の構造や少人数指導の方法を工夫して「分かる授業」を展開し、子供たちにできる喜びを味わわせることが確かな学力につながる。</p> <p>(2) 授業の中で子供同士がかかわる場を設定し、共に学ぶ喜びを味わわせることで、自分らしさや個性を発揮していく子供が育つ。</p> <p>(3) 指導に生きる評価の在り方を工夫することで、子供たちに認められる喜びを味わわせることができ、学ぶ意欲をもたせることができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 「確かな学力の構造仮説」の見直しと実践</p> <p>(2) 全校算数・全校国語と算数科での少人数指導の在り方</p> <p>(3) 研究授業の観察と分析（学習過程と子供理解）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観察のための方法の具体化 ・ 子供同士のかかわりを深める指導の手立て
--------	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>一人一人が喜びをもって学習できるための教師の支援はどうあればよいか 確かな学力を身に付ける子供の育成</p> <p>仮説</p> <p>(1) 授業の構造や少人数指導の方法を工夫して「分かる授業」を展開し、子供たちにできる喜びを味わわせることが確かな学力につながる。</p> <p>(2) 子供同士が見通しをもちながら活動できるための学習構造（間接的な支援）と一人一人に応じた支援（直接指導）のあり方を工夫することで確かな学びが保障できる。</p> <p>(3) 指導に生きる評価の在り方を工夫することで、子供たちに認められる喜びを味わわせることができ、学ぶ意欲をもたせることができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 全校算数・全校国語と算数科での少人数指導の在り方</p> <p>(2) 全員による研究授業観察と授業分析（指導と評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価の方法と指導への生かし方 <p>(3) 読書指導・体力づくり・合奏など一人一人が生きる活動の実践</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

1 子供たちのきれいな教科へのアプローチ

平成13年年度より年度末に子供たちに学校評価にかかわるアンケートを実施している。その中に、「好きな教科」「嫌いな教科」の項目があり、その結果をみると、嫌いな教科が減り、好きな教科が増えている様子が見えてくる。

(1) 全校算数、全校国語

同じ活動の繰り返しだが、子供が問題を作ったり、丸付けをする先生役になったりと場の設定を工夫したり、タイムリーな評価を心がけたりして、マンネリ化を防ぎ、意欲を持続させることができた。

【様式1】

(2) TT、少人数指導

今年度も、算数の時間はTT、少人数指導を取り入れた。少人数指導は、昨年度より多く実施した。子供たちは、自分の力や興味に合わせて、コースを選択する学習を楽しみにしている。また、今年度は、単元ごとに具体的な評価計画の作成を進めてきた。

(3) ぐんぐん活動

清掃、遊び、読書、合奏、100m走、動植物の世話など、自由に活動できる時間「ぐんぐんタイム」を1日3回設けた。自分で考える力が育ち、生き生きと活動している。

(4) 読書活動

総合的な学習の時間に読書活動を位置付けるなど、読書活動の時間を確保したり、読書環境の充実に努めたりした。目当てをもって読書する子供が増えた。

(5) 校内研修を通して評価、観察の方法の見直し

授業研究の際には、外部から講師を招いて指導を受けている。授業後の協議会では、活発に意見を交わし、子供の捕らえ方、評価の仕方など、多少なりとも指導力が向上したのではないかと思われる。

2 学力調査の結果分析

昨年度は、県平均と本校の平均点との差は、-3.8点だったが、今年度の本校の平均点は県平均より、0.3点高かった。学力調査の結果は、問題のねらいごとに正答率を出し、実態を把握するとともに、今年度の指導に生かすようにしてきた。

2. 今後の課題

- ・ 全校算数・国語での評価や教師の役割について
- ・ TTや少人数指導での学習の進め方や単元の構成、教材開発、評価の仕方について
- ・ 授業記録の見直しを図った授業研究のあり方について

学力等把握のための学校としての取組

- ・ 年1回の学力調査の比較分析
- ・ NRTによる学力の把握(2月実施)
- ・ 全校算数・国語の一人一人の取組みへの評価(学期ごと)
- ・ 各教科の意欲(好き、嫌い)調査(毎年2月・学校評価をかねて)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 校内授業研究はすべて公開とし、メール、ホームページで案内。
- ・ 職員全員が、それぞれの領域や教科での研究の成果をとめ、紙上で研究発表。
- ・ ホームページで、フロンティアのページを作成し、研究授業等の様子を紹介。
- ・ 区域の教頭会、教務主任会、小教研等で、成果を伝えていく。また、開発した教材を共有できるようにしていく。(今年度は全校算数の問題をCD-Rで配布)
- ・ 保護者や地域へは、学校だより、学習参観、愛育会総会等で紹介

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】

15年度からの新規校

14年度からの継続校

【学校規模】

6学級以下
 13～18学級
 25学級以上

7～12学級
 19～24学級

【指導体制】

少人数指導
 一部教科担任制

T・Tによる指導
 その他

【研究教科】

国語
 生活
 体育
 社会
 音楽
 その他

算数
 図画工作
 理科
 家庭

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】

有 無